

65th MAINICHI FILM AWARDS
第65回 毎日映画コンクール表彰式

MAINICHI Film AWARDS
www.japan-movie.net

第65回 毎日映画コンクールを川崎市で開催

第65回毎日映画コンクール表彰式を平成23年2月8日にミュージアム川崎シンフォニーホールで開催いたしました。堤真一や寺島しのぶ、稲垣吾郎、夏川結衣、江波杏子といった豪華な俳優が集まり、非常に華やかな式典となりました。

また「映像と音楽の調和で次の扉を開く」として、東京交響楽団とテアトロ・ジューリオ・ショウワ・オーケストラの2大オーケによる生演奏の演出が表彰式を盛り上げ、tvkによる生放送で、川崎市民はもちろん県内外の方々にもお楽しみいただくことができました。

この素晴らしい映画賞の受賞者にも、日本映画学校（川崎市）の卒業生が多く名前を連ねています。昨年は、ドキュメンタリー映画賞を「あんにょん由美香」の松江哲明監督が受賞、今年は、監督賞を「十三人の刺客」の三池崇史監督、日本映画大賞を「悪人」の李相日監督が、それぞれ受賞を果たし、授賞式の会場でマスコミ各社のフラッシュを浴びました。日本映画学校で学んだ卒業生が栄えある映画賞を授賞し、川崎に戻ってきてくれたわけです。

またその日本映画学校も来年度4月より、日本初の映画の単科大学として開講されます。これまで使用してきた新百合ヶ丘キャンパスに加え、麻生区白山2丁目に白山キャンパスがオープン。新たに今村昌平記念スタジオも竣工し、川崎で教育と創作の拠点がスタートすることになります。

またその前身の日本映画学校では、今年度日本映画大賞受賞した李相日監督の他にも、映画「踊る大捜査線」の本広克行監督、映画「半落ち」の佐々部清監督など、多くの映画人が輩出されています。



<毎日映画コンクールとは>

毎日映画コンクールは、第1回日本映画賞を「或る夜の殿様」（監督・衣笠貞之助、主演・長谷川一夫、山田五十鈴）が受賞して以来、演技、作品はもちろん、美術や照明や録音などの映像スタッフ、故女優の名を冠する賞など、幅広い部門を設け、顕彰を続けてきました。

本コンクールの歴史は、戦前1935年までさかのぼります。毎日新聞がまだ東京日日新聞と称していたこの年、「全日本映画コンクール」が開催されました。コンクールの開催は、「映画界に旋風のようなセンセーション」を巻き起こし、第1回のこの年、渡辺邦男監督の「うら街の交響楽」を最高賞の「東日コンクール賞」に選び、俳優演技特賞を夏川静江が受賞しました。しかしコンクールはその後間もなく、日本が暗黒の時代に突入する第二次世界大戦で中止されました。

現在の「毎日映画コンクール」が産声を挙げたのは、1946年です。映画は当時、荒廃した国土の復興にあえぐ人々を勇気づける一級の娯楽。その復興を後押ししようとなりました。

審査員には石川達三、河盛好蔵、志賀直哉ら、そうそうたる面々が並びました。映画がいかに重きを置かれていたか、ここからもうかがえます。

この時は、大手映画会社が推薦した自社作品を上映し、審査員の審査によるコンクール賞と、一般入場者の投票による大衆賞、その他、脚本、演出、演技、撮影、音楽の各賞を選出しました。ちなみにコンクール賞、大衆賞とも、受賞作は「或る夜の殿様」。戦後の開放的で革新的な気分を反映した喜劇が、高い支持を受けたようです。

以後、時代の変化とともに選考方法や賞の区分を変えながら、現在まで続いています。その歴史はカンヌ国際映画祭より古く、国内では「キネマ旬報ベスト・テン」に次ぐ長さです。

毎日映画コンクールはこれからも時代背景に合わせ、映画の今とともに歩んでまいります。

【第65回（2010年）受賞者及び受賞作品一覧】

<作品部門>

- ・日本映画大賞 「悪人」（李相日監督）
- ・日本映画優秀賞 「春との旅」（小林政広監督）
- ・外国映画ベストワン賞 「息もできない」（ヤン・イクチュン監督）

<監督賞／脚本賞>

- ・監督賞 三池崇史 「十三人の刺客」
- ・脚本賞 佐藤有記 「ヘヴンズ ストーリー」

<俳優部門>

- ・男優主演賞 堤 真一 「孤高のメス」
- ・女優主演賞 寺島しのぶ 「キャタピラー」
- ・男優助演賞 稲垣吾郎 「十三人の刺客」
- ・女優助演賞 夏川結衣 「孤高のメス」
- ・スポニチグランプリ新人賞 遠藤 要 「イエローキッド」
- ・スポニチグランプリ新人賞 徳永えり 「春との旅」
- ・田中絹代賞 江波杏子

<スタッフ部門>

- ・撮影賞 近藤龍人 「海炭市叙景」
- ・美術賞 近藤成之 「武士の家計簿」
- ・音楽賞 ジム・オルーク 「海炭市叙景」
- ・録音賞 中村 淳 「十三人の刺客」
- ・技術賞 該当なし

<ドキュメンタリー部門>

- ・ドキュメンタリー映画賞 該当なし

<アニメーション部門>

- ・アニメーション映画賞 「カラフル」（原 恵一監督）
- ・大藤信郎賞 該当なし

<TSUTAYA映画ファン賞>

- ・日本映画部門 「THE LAST MESSAGE 海猿」（羽住英一郎監督）
- ・外国映画部門 「エクリプス／トワイライト・サーガ」（デヴィッド・スレイド監督）

<特別賞>

- ・特別賞 故・高峰秀子（女優）

※以上、敬称略